

1. 評価結果概要表

平成 20年 2月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	2072900349		
法人名	社会福祉法人 幸充		
事業所名	グループホーム くらし		
所在地	北安曇郡松川村字南神戸4360番地19 (電話) 0261-61-1836		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年3月21日

【情報提供票より】(20年 1月 15日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤4人	非常勤6人 常勤換算6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要 (1月 15日 現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	3名	要介護2	3名
要介護3	3名	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 84 歳	最低 77 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安曇総合病院	・	大北歯科医師会
---------	--------	---	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人幸充を母体に持ち、介護老人保健施設ライフ2に隣接しており連携が図られている。管理者は医師の資格を持ち合わせ、職員のよきスーパーバイザーであり職員の育成に努められている。なお計画作成担当者は認知症介護の経験年数も長く、専門性も持ち合わせ法人理念を基に、深い熱意を持ち入居者の安心と信頼に向けた関係作りや、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメントと日々の支援について職員と共に留意して当たられている。入居者は家庭的な雰囲気の中で大変明るく笑顔が見られ会話が弾んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 入居時に入居者、ご家族より生活暦の情報提供を頂くと共に、日々の関わりの中より新たに知りえた情報を職員間で共有し、日々の介護サービスの提供に活かされる等の取り組みに努められている。地域との関わりについても交流の持ち方や、地域活動への参加に向け努力がされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価にあたり全職員に意義や目的等、理解の周知を図られると共に評価結果を関係者に伝達し、介護サービスの質の確保・向上に取り組まれている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回運営推進会議が開催され入居者、ご家族、市町村関係者等の出席により意見交換が図られている。ホームより現況報告や行事を含め活動状況の報告が行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居時には相談、苦情窓口の説明をすると共に、年1回開催されている家族会や、2ヶ月に1回開催されている運営推進会議において、ご家族の意見や要望が表出できる場面づくりに配慮されている。なおご家族面会時には、入居者の近況を伝えると共にご家族の意向をお聞きし、介護サービスに反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者が楽しみにされている散歩、買い物、外食等の外出時に地域の方々との出会いや交流をもたれている。なお地域の文化祭や保育所、地区社協との交流が図られている。ホーム職員は、今後更に地域に向けた積極的な取り組みに意欲を持たれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を掲げ運営されている。法人理念を基に日々の方針や目標に具体化した内容(地域の拠点となれるよう、なお入居者が生きがいや喜びを感じゆっくり、ゆったりと生活することができる暮らしの支援)が盛り込まれた理念が明示されている。	○	自己評価より地域住民との情報交換を行い入居者が地域で継続した生活が送れるよう支援していきたい旨が明記されており、今後さらに地域密着型サービスと生活の継続性が組み入れられたホーム独自の理念をつくりあげられることに期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時にホーム理念が伝えられ理解を得ると共に、日々理念に基づいた生活支援が行えるよう話し合わせ、理念の実現に向け全職員で取り組まれている。	○	職員の異動が比較的多いことから、日々の生活支援において理念の周知に努められ、その人らしい暮らしを続けるための支援に期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者は散歩や買い物、外食等地域への関わりを持たれている。地域の文化祭への見学や保育所、社協との交流を持たれている。各機関よりの誘い等を頂くものの、職員体制を考慮したときに参加できないことが多いことを伺った。	○	入居者が地域住民の一員として、地域の行事に自由に参加し交流ができるよう積極的に取り組まれるよう期待します。なお職員体制についても配慮が望まれます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的について職員全員に周知をはかるよう努められている。なお評価結果をご家族や職員に伝え、必要に応じご家族にも協力をいただきながら生活支援の質の向上に努められている。		

グループホームくらし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度で運営推進会議が開かれ、入居者の日常生活や活動状況等の説明を行いホームへの理解をいただくと共に、入居者・ご家族、市町村関係者等の参加により質問・意見をいただいている。現在検討事項や懸案事項は出されていない。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームより市町村に懸案事項など相談がけをすると共に、市町村より必要に応じホームへの訪問をいただく等連携が図られ生活支援の質の向上にむけた取り組みがされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時に入居者の現況報告をすると共に金銭管理帳による確認をいただいている。ご家族への連絡表を用いて必要時に連絡をしたり、家族会や運営推進会議のおりに情報提供行うなどの配慮がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の説明や家族会開催のおりに、苦情受付担当者の提示、受付場所等の案内をされている。なお運営推進会議へ出席時にご家族の意見・要望等の表出場面づくりに配慮がされている。ご家族との良い関係づくりに努められている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が比較的多いため、新旧職員の連携により馴染みの関係づくりに配慮されている。	○	入居者・ご家族と職員の信頼関係を築くためにも、入居者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制づくりが望まれます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年次計画に外部研修を組み入れ、職員が順番に研修参加ができるよう配慮されている。なお外部研修後、発表の場を設け研修内容の共有が図られている。また管理者(医師)によるトレーニング方法のスーパーバイズ等の内部研修が実施されている。しかし職員体制を考慮した時に研修会への参加が制約されている。	○	地域密着型サービスの実践力育成に向けて、職員各自の力量にあった研修受講ができるよう職員体制の確立に期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が研修会に参加したおりの情報交換以外に同業者との交流が図られていない。	○	サービスの質の向上を目的に平成19年度に長野県連絡会が発足しています。連絡会の指導を得て近隣のグループホームネットワークの確立等によりグループホーム間の交流と連携により、サービスの向上が図られることに期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者・ご家族が安心してサービスを利用できるよう、入居者の状態に合わせて体験入所による馴染みの関係づくりへの配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居・ご家族の状況を把握すると共に、入居者に寄り添いの支援(気配り、目配り)により思いを共有されるよう努められている。なお住み慣れた地域や地域関係者より、入居者の習慣を周知し職員間で共有をはかれると共に入居者の長い人生の経験から学ぶ姿勢を大切にされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者への日々の関わりの中より思いや意向の把握に努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、職員全員で関わり、日々の関わりの中より把握された入居者の意向や訴え、またご家族の意向等が組み入れられた介護計画書が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回の見直しが行われている。なお日頃のケアの中で入居者に状態変化がみられた際には入居者・ご家族の要望を取り入れた見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助は通常ご家族対応とされているが、ご家族の状況に応じ通院介助の支援が行われている。		

グループホームくらし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は在宅時の主治医により適切な医療を受けられている。なおホームへの往診もいただいている。ご家族が通院介助の折には必要に応じ入居者の状況書を作成しお渡しされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所説明時にホーム運営方針として、入居者、ご家族へ終末ケアの予定がない旨をお話をして了解の上入所されている。しかし入所者への日常支援の経過より認知症の進行状態の予測についてご家族と話し合われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報保護について職員室に掲示し、職員の意識向上を図ると共に、機会ある毎に話し合いを持ち職員間で統一した意識が持てるよう周知に努められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるものの、入居者の気持ちを大切にして、入居者の意向(買い物、散歩、入浴、食事メニューの選択等)に沿った支援に努められている。		

グループホームくらし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の力量を把握されており、食事づくりには楽しんで参加できるよう配慮がされている。なお食事メニューについては入居者の嗜好を考慮して提供されており、職員と同じテーブルで会話をしながら楽しく食事をされている。食後の片付けは入居者が中心となってスムーズ行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、入浴時間等を限定せず、入居者の希望や体調に合わせた入浴支援が行われている。(毎日入浴の方、一日おきの入浴の方等)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や力量に合わせた支援が行われている。(調理手伝い、洗濯物干し、掃除、買い物、縫い物、編み物、カラオケ等)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食事の買い物は交替に行かれ、個々の日用品の買い物については本人に行っていただいている。散歩や時には外食を楽しみにされている。時には戸外にて食事をされることもあり訪問日の昼食時に、おにぎりの中身について話し合われていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居時にご家族には、入居者の安全を守る為に時には玄関の鍵をかける可能性のあることを説明し理解を得られていることを伺った。通常玄関に鍵はかけていないとのことのお話で、訪問当日は施錠されていなかった。		

グループホームくらし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練が実施されている。しかし全職員が参加されていない。地域の協力体制は得られていないが、防災訓練時の見学やホームの防災設備の実情を見て頂いている。	○	ホームには何らかの介護と支援を必要とする入居者方が居住されており、安全に避難していただく為に地域住民による協力体制を築かれることに期待します。なお全職員参加による統一した訓練の実施を望みます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の身体状況を把握されており、バランスの良い栄養摂取にむけ併設施設の栄養士に相談がけされている。なお水分摂取量についても一人ひとりに配慮した支援をされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は高い天窓より取り入れられた採光は柔らかい自然光がそそがれている。食堂と兼用の居間と、長炬燵が設置された和室があり、入居者は自室に籠ることなく、思い思いにゆったりと過ごされている。なおトイレには窓が設置され常に換気ができる仕様となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込まれたタンスや家族写真等が飾られ、それぞれ居心地の良い居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。